

平成30年度 学校評価報告書【国立市立国立第二中学校】

学校教育目標	たくましく現代に生き、平和で幸福な未来社会を創造する人間豊かな生徒の育成をめざす 一、よく考え進んで学習する生徒 一、思いやりをもち協力する生徒 一、自らの心と体をきたえる生徒 一、正しく判断し実行する生徒	重点目標	自ら進んで正しく行動し、互いに高めあい学習する生徒の育成 ～「自主・自律」の二中 「学びあい高め合う」二中～
--------	---	------	---

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標	達成状況		分析	改善策	学校関係者評価
					中間評価	最終評価			
一、 自らの 考えと 進んで 学習す る生徒	「学習力 向上」 に 取り 組む 生徒の 育成	学習指導の充 実を図り、向 上心を高め る ・「学びあ い高めあ う」二中	「基礎的な知識・技能」 の習得 ・教材教具、ICTの活用 ・ねらいの明確な授業と 丁寧な説明 等	・各種学習調査における「 習得」の項目で平均以上。 ・生徒による授業評価「分 かりやすさ」の肯定評価 80%以上。	A	B	・生徒による授業評価は、「 ポイントを絞ったわかりやすい説 明」の肯定評価は全教科、全教 員80～100%であった。た だし、家庭学習定着率80%以下 や下降もみられる。	・「家庭学習」定着率向上 が課題である。「1ページ ノート」等、自宅学習課題 の提示など教員から促す取 組を検討する。	家庭学習に取り組める工 夫は概ねできているが、質 や内容についての指導があ るとよい。家庭環境も大切 なので保護者の協力を求め る必要もある。
			「生徒主体の学習」の推 進 ・チャレンジする課題設 定 ・問題解決型学習の活用 等	・問題解決的授業の実践 ・グループ学習の充実 ・生徒による授業評価「主 体的学習」の肯定評価70% 以上。	B	B	・生徒による授業評価は、「意 欲的取組み」「話をよく聞く」 「不明点を質問」の各項目とも 80%以上が良好評価。 ・教員面接では、問題解決的授 業実践は不十分との評価が多 かった。	・問題解決型学習を定期的 に実施することで、主体的 学習の向上と教員の授業改 善を図る。	授業を見る限り、生徒は 積極的に考えを述べあっ ている。問題解決型学習は準 備等、教員は大変だと思 うが、生徒主体で学習する点 で大きな効果があると思 うので、推進してほしい。
			個に応じた学習支援と特 別支援教育の推進 ・合理的配慮 ・「楠学級」との連携 ・放課後補習教室STEP 等	・少人数授業（数・英）の 充実 ・放課後補習教室STEPの推 進 ・特別支援教育の視点に立 つ授業実践の充実	B	B	・放課後補習教室STEPは、年間 30回実施。毎回生徒の参加は あった。また、補習教室も定期 試験前に実施した。 ・少人数授業は、形態・グルー プ編成等工夫により充実した。 ・「楠学級」との授業交流は、 実施できなかった。	・次年度放課後補習教室 STEPを継続するとともに、 国立市学習支援「LABOくに スタ」の紹介など連携を検 討する。	放課後の補習は評価でき るが、生徒自らが参加でき る環境づくりが大切であ る。少人数授業の実践もた いへん良いと思う。個々の 生徒に応じた指導を行っ てほしい。
一、 正しく 判断し 実行す る生徒	「生活力 向上」 を 図る 生徒の 育成	きめ細かな生 活指導によ り、生徒の規 範意識を高 める ・「自主・自 律」の二中	基本的な生活習慣の確立 ・「生活規律改善計画」実 施及び充実	・挨拶の励行 ・好感もてる身だしなみ ・時間を意識した生活 ・保護者アンケート(12月) による肯定評価80%以上。	A	A	・挨拶、身だしなみ、時間等 「生活規律改善計画」に係る大 きな課題はない。 ・保護者アンケートにおける生 活規律の肯定評価は、85%であ る。	・「生活規律改善計画」 は、次年度も継続して取り 組む。その上で、指導の工 夫によりそれぞれの質を高 める。	地域から見ても二中の生 徒の評価は安定している。 挨拶などもきちんとでき ている。地域としても協力し ていかななくてはならないと 思う。
			道徳教育の充実 ・生命尊重の教育 ・人権教育の推進 ・道徳授業の計画的実施	・道徳授業の確実な実施と 指導法の工夫 ・評価の研究 ・カリキュラムマネジメン トによる道徳の活用	B	B	・授業のみならず集会、各種行 事等様々な場面において生命、 人権等の教育を推進した。 ・評価についての研究、確認は 進んだが、授業の計画的実施に 課題が残った。	・道徳授業は、全教員で取 り組み、指導の工夫を共有 し、授業改善に取り組む。 ・評価については研究を重 ねながら、各学期実施す る。	道徳の授業に学級担任だ けでなく、全教員で取り組 むことはよい。評価は難し いと思われるが、工夫をし てほしい。
			いじめ根絶と不登校対策 の取組み ・ふれあい月間 ・スクールバディの充実 ・教育支援委員会の充実	・スクールバディの活躍 (企画の年2回実施) ・教育支援委員会の活性化 ・関係機関(SC,SSW,子家等 等)との連携、体勢強化	B	B	・教育支援委員会、いじめ対策 委員会の定例化と機能向上を 図ることができた。 ・スクールバディの活動は継続 的にできた。その「見える化」 が課題。 ・不登校生徒対策の充実が課 題。	・教育支援委員会、いじめ 対策委員会の機能強化を図 る。 ・スクールバディの活動の 「見える化」を推進する。 ・未然防止、早期対応に重 点を置く。	いじめ、不登校、虐待の 対策は重要な課題である。 いじめについては早期発 見、初期段階での対応に力 を入れてほしい。各委員会 の機能強化とともに、学校 評議員会の関わりも確認し ていく必要があると思う。

達成状況の指標 A:100%～80% B:79%～50% C:49%以下

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標	達成状況		分析	改善策	学校関係者評価
					中間評価	最終評価			
一、思いやりをもち協力する生徒	「人間力向上」をめざす生徒の育成	生徒主体の特別活動の充実を図り、互いの良さを認め合う生徒を育成する。 ・「自主・自律」の二中	学級経営、学年経営の充実	<ul style="list-style-type: none"> 各学級学年の経営目標の明確化 9月に進捗状況確認、修正 生徒の学級に対する肯定評価80%以上。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 9月、2月に教員と全員面接実施。概ね各学級・学年は安定しているとの分析であった。 各種行事や学期末の振り返り等から、学級に対する生徒の肯定評価は90%超。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級、学年経営の充実を次年度も継続し、生徒の居心地の良い学級作りに取り組む。 	生徒の工程評価が高いのはたいへんよい。今後も改善策に沿って学級、学年経営を進めてほしい。
			生徒主体の学校行事、生徒会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 創立60周年式典を通し学校への誇り等醸成。 運動会、合唱コンクールの生徒の主体的参加 生徒会(委員会)活動の充実 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 運動会、合唱コンクールに90%以上の生徒が「主体的に参加できた。」と評価している。 生徒会活動(委員会)は着実な活動で学校生活の安定につながった。 周年式典への生徒の取組意識が高く、学校への誇りを醸成できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的取り組みを充実させ、更に互いの良さを認める学校創りに取り組む。 	行事や生徒会活動については、先生方の指導も大変だと思うが、生徒の主体的な取り組みが見られ、たいへん素晴らしい。
			体験的な学習・活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習や宿泊行事の充実 オリパラ教育充実 キャリア教育の充実 ボランティア体験の参加 生徒の肯定評価80%以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習、宿泊等、初期の目標を達成できた。特に宿泊行事等の生徒の主体的体験参加に対する肯定評価は80%以上であった。 夏休みボラ、環境フェスタ手伝い等、より積極性がほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習、宿泊学習等のさらなる充実の上に立ち、積極的関わりの意識を高める。 ボランティア活動(体験)の充実を図る。 	校外学習、宿泊等の意義は重要だと思うので、目標を大切に継続してほしい。ボランティア活動については、地域として本当に感謝している。積極性が少しずつ向上するとよいと思う。

達成状況の指標 A:100%～80% B:79%～50% C:49%以下